

令和元年度 第1回あまくさ創生実践会議 会議録

日 時	令和元年10月18日(金) 10:00~12:10
場 所	本庁 庁議室
出席者	別紙「あまくさ創生実践会議 名簿」のとおり
議 題	(1)まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績について (2)人口の現状分析と第2期の策定に向けた国の動向及び天草市のスケジュールについて (3)その他
資 料	【事前配布】 <ul style="list-style-type: none"> ・まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・まち・ひと・しごと創生総合戦略 実績報告と第2期の方向性 ・具体的な事業の概要（総合戦略の資料） ・人口の現状分析と将来展望（人口ビジョン参考資料） 【当日配布】 <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・あまくさ創生実践会議 設置要綱 ・第2期「総合戦略」の策定スケジュール（案）

議題（議長：会長）

(1)まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績について

①基本目標1

事務局より総合戦略の概要及び基本目標1の実績について説明

会 長：地方創生のテーマは、全国的にも人口減少社会に直面していく中で、どのような地域づくりをしていくかということがある。これまでの実績を踏まえ、第2期に向けたヒントになるような取組みや気になる点など、意見を伺いたい。

委 員：世界遺産など観光分野は進んでいると感じる。自転車を活用した取組みについては、上天草市は進んでいるようだが、天草市の取組みが見えない。状況を知りたい。

事務局：上天草市、苓北町との広域連携による「サイクルツーリズム協議会」を昨年度設立し、道路整備や安全面について協議している。ソフト面では「VISIT あまくさ」において、コースやステーション（休憩所）の設置、パンフレット等を作成している。ご指摘のとおりPR不足の点はあるが、当初よりは進んでいる状況である。

事務局：広域連携については、資料「具体的な事業の概要」P.28に記載。県の広域本部が中心となり動いている「VISIT あまくさ」の中でサイクリング事業にも取り組んでいる。世界遺産関連では、南島原市とも連携するなど新たな取組みを実施している。ご提案をいただければ観光面以外の連携にも取組んでいきたい。

会 長：自転車は、潜在能力もあり天草に向いていると感じるが、自転車を持参するとなると、フェリーなど交通経路の視点から広域連携も必要になってくる。

委 員：まさに今日、アメリカの方が自転車で福岡から天草に来ており、スタッフ（観光協会）が宿を探している。天草で自転車を売却しバスで福岡に戻るルート。広域連携の話になったが、どこまで広域にするかが課題。

宿泊施設の現状について、H18~H28までに約30軒減少、1日あたりのキャパ数だと900人の減少になる。民宿・旅館は現在100施設あるが、経営者の高齢化によりさらに減少する。観光を推進するうえで受け入れ施設は重要。呼び込んでも宿がないのは問

題。現在、具体策はないが、受け入れ施設の軒数を数値目標にする視点もあったほうが良い。

事務局：宿の高齢化がすすんでいる。総合計画における人材育成について、宿泊施設の視点も含め取り組んでいきたい。

事務局：地方創生を進める中で、先駆的取り組みと認められ国から交付金をいただいているものがある。アマビズや物産公社などがその例だが、来年度で終了になる。市として力を入れて取り組んでいるが、今後について委員の意見を伺いたい。

また、一次産業で力を入れている新規就業者の確保についても、次につなげるために意見をお願いしたい。

委員：アマビズについては、来月意見交換を実施し、連携を強めたい。弊社の就業者については、これまで年間4～5人程度の採用だったが、今後人員が不足するため、今年から通期にわたって採用を実施し、前年比倍程度の採用を予定している。これまで地元最優先で人材を雇用していたが、今後は他地域からの移住者なども含め採用していく。

会長：貴社の会員企業などとの話の中での雇用に関する課題や増えている相談などないか

委員：1～2名程度の零細企業が多いため、当部署に直接人材不足の相談はないが、数十名を超える企業においては、高齢化による人材不足で困っている状況。

会長：人が足りないことを実感されている状況だと思う。企業で働きながら、複業で何かに挑戦する、創業するなど、アマビズとも連携するような、天草のスタイルに合わせた雇用方法はできないのか。それ以外にも、天草で戦略的にできることなど、何か実感していることはないか。

委員：弊社では、地元高校に募集するが、応募がない。天草工業高校は就職率100%、優秀な人材は外に出て行ってしまう。その中で、卒業後外に出て、戻ってきた人材が2名おり、積極的に業務に取り組み活躍している。地元に戻りたいUターン者とのマッチングの機会があれば、若者がもっと活躍できるのではないか。

会長：確かにUターン者に対するマッチングの機会があると活躍の場が広がる。

事務局：Uターン者向けの取り組みとして、本市を離れて5年以上経過すると新規移住者と同じ制度を適用している。また県と連携し、直近5年以上東京23区に在住又は通勤していた方については、県が運営するマッチングサイトに掲載された求人にも新規就業又は県の起業支援金の交付を受けた場合についても支援する制度がある。

会長：Uターン者向けのマッチングの機会について、もう一步踏み込んだ具体的なものはないか。

委員：自分を含め全体的に天草は情報発信が下手。マッチングできるような情報をうまく発信できれば出口が作れる。関係機関と連携し、次期から取り組んだほうが良い。

会長：情報や制度を用意して待っているだけではなく、積極的に個々に働きかけるなど、具体的な関係づくりに取り組むことが大切。情報を集めて出すだけではなく、具体的なターゲットを設定して、そこに働きかけるような方法が重要。

委員：新規高卒者の管内就職率が記載されているが、今年度、拓心高校で天草の課題をビジネスの手法で解決するという部活「ソーシャルビジネスプログラム（SBP）」を立ち上げた。天草で仕事をしたい者は多いが、受け入れがない。郷土愛を持っていただきたいことから、取り組んでいる。県立高校だから県ということではなく、市も高校生と積極的に接触し支援してほしい。そのことで高校生の考え方も変わっていく。今年、伊勢市でSBPの全国大会があり、拓心高校も参加、参加生徒は意識がしっかりしている。宝島人材育成事業はやっているが、もう一步踏み込んだ取り組みをやってほしい。

道の駅については、施設ができたことが評価されているが、地域にどのような効果があるのか。最近、イルカがいなくなったとの話も聞く。イルカセンターなど、できたばかりの施設の評価は難しいが、地域への波及効果がこれから大切になってくる。

会長：指標として、今後は見直しが必要。例えば、拠点については、施設の数から、今後はよ

り実質的なものが求められる。

仕事があるから人が来るとの見方もあるが、仕事を創るために地域に来るということもある。高校生のときから、地域で色々なことに挑戦できる環境があり、その経験から、地域で仕事を創る魅力を実感してもらうことが大切。

大学でもペーパーテストの暗記ではなく、自ら挑戦し考えられる人材が求められている。地域で色々な挑戦をして自ら学びつづけてきた高校生が求められる時代にある。考え次第だが、都会より地域でまちづくりに取り組んだ方が深い経験ができる。高校と地域との連携はとても大切になってくる。

委員：郷土愛の話が出たが、拓心高校では文部科学省の指定を受け、地域と連携した取り組みを展開している。県立高校は地域に対して熱い思いがあり、ボランティアなどにも積極的に参加している。会長から話もあったが、大学入試では、高校時代に何を取組んだか、ボランティア活動なども重視されており地域との連携もできるだけやりたいと考えている。

そのような中で、天草市の支援を受けて、地域を学ぶ講座を実施している。全8回の講義で、課題を発見する視点が広がり、各生徒がテーマを設けて自主的に研究し発表する機会を設けている。このような取り組みが、今後自ら課題を発見し解決するという、新しい時代を生き抜く力につながっており、地域を意識した取り組みを実施している。例としては、天草高校の生徒がシンガポールで開催された研究発表の世界大会に出場した際、急遽要求された出し物で、ハイヤ踊りを披露した。小中学校での経験、郷土愛を育む取組の成果。小中高連携しながら郷土に触れ合う取組ができています。

会長：企業の皆さんも、高校生に体験をさせてあげるのではなく、高校生が自ら本気で取り組む前提で、一緒に取り組むことが大切になっている。そういったことがあたりまえにやれている地域は魅力がある。高校生は、その経験を通じて、大学に入るときには、さらにこのような学びをしたい、取り組みをしたい、ということたくさん持っていて、実際に挑戦し続ける準備ができていことが大切。そういった方こそ、大学も来て欲しいということになる。いま、高校生が地域での取り組みをもう一歩進めるタイミングになっている。逆に言うと地域をあげて、その仕組みづくりに取り組まないと、高校生にそのチャンスをあげられないことになる。高校生が実践的に取り組むと、高校生の将来も変わる時代にある。そして、そのことが良い経験につながり、地域に戻ってくる際にも役に立つ。できるだけ地域内で本気で取り組む事を促すことが大切。高校生が起業し、大学に行き、地元に戻るケースも増えており、その流れを先取りすることで天草の強みになる。

委員：就労について、副業や副収入を国がすすめている。1つの会社に勤務し、給料を上げていくのは厳しい。地域として副業・副収入について、新しい事業ができないか、働き方改革により時間ができるのではないか。観光でいうと、繁忙期とオフ期の差が激しいため、オフ期に何かできるのではないか。個人で収入を増やすためのネットを活用した取組みは高校生の方が詳しいと思う。やりたいことを支援できるような地域になると、若者が安心して働けると感じる。

②基本目標2

事務局より基本目標2の実績について説明

委員：地域おこし協力隊について、産業政策課で雇用されている方についてはミッションがはっきりしているが、まちづくり協議会や支所に配置されている方については、受け持つ範囲が広すぎる。もう少し小さい範囲にしないと目的が達成できない。

事務局：地域おこし協力隊については、まちづくり協議会など地域課題解決のために6名、天草産品のブランド化を推進するために1名、天草陶磁器の普及・推進に1名、イルカセンターの開設準備に1名の計9名を雇用している。全ての協力隊員と担当の市職員を対象

に、毎年ヒアリングを実施し活動状況を把握している。状況によっては、ミッションの軌道修正を行う場合もある。指摘事項については、これからのヒアリング等により、今後反映させていきたい。

委員：ぜひお願いしたい。あまりにも受け持つ範囲が広すぎて今のままではもったいない。

会長：地域おこし協力隊が活躍できるように戦略として何をするべきか、受け入れる側が何に取り組むべきかが問われている。そこが解決できると、移住定住の促進に加え、さらに天草が強くなる。

委員：会長ご指摘のとおり受入側がしっかりしないと、活躍の場がなくなる。

会長：受入と言うと市の仕事として捉えられがちだが、地域によっては、地域団体が役割を担っているところもある。

Uターンについて、体系だった戦略が必須。大学などの卒業直後だけではなく、子育ての時期とか、ライフステージに応じたターゲット設定を具体的に行うことも大切。Uターン支援の総合的な仕組みとして、第1期に総合戦略の時に検討することになっていた「ぶり奨学プログラム」の検討が残っている。地域に大学がないからこそ必要な生活面での金銭支援のほか、雇用や創業面の支援、情報提供や働きかけの仕組み、寄付の仕組みなどを組み合わせたもので、全国で普及している。検討が漏れている。

③基本目標3

事務局より基本目標3の実績について説明

会長：若い世代の希望をかなえることにより、仕事をしやすい環境整備にもつながる。

結婚組数の実績は×になっており、データとして把握していないとのことだが、実感としてはうまくいっていないわけではない、との認識でよいか。

事務局：カップルは成立しているため、第2期からは、指標を結婚組数ではなく、把握可能なカップル成立数に変更できないか検討している状況。

事務局：基本目標3の分野に関しては、かなり順調に進んでいる。合計特殊出生率も向上しており、「安心度」部門での住みよさランキングでは、本市が全国1位。この結果からも、良い方向で進んでいる、継続して事業を実施していく。

会長：先ほどの情報発信の観点とも関わるが、そのような状況を具体的なターゲットに発信することで、さらに天草市が魅力的であることが伝わるし、市民の安心にもつながる。

委員：不妊治療について、かなり高額と認識している。10万円の助成で治療費の何割程度軽減できるのか。

事務局：子育て支援の一環として、保険外の治療費を国・県が支援している。自己負担分についての、10万円補助により負担感がほとんど無い状況につながっていると認識しているが、補助を受けるための要件は厳しいものになっている。

④基本目標4

事務局より基本目標4の実績について説明

委員：今年の4月から地域のバス路線が廃止になった。高齢者の移動手段はバスしかないが、乗合タクシーがあるとの話を聞いた。詳しく教えてほしい。

事務局：本渡周辺地域において、平成30年度にバス路線の再編・廃止を計画し、廃止するバス路線の代替手段として今年度から乗合タクシーを運行している。平床線、鶴線、半河内線、方原線を運行。方原線では児童の通学の関係上、毎日運行している。その他は、月・水・金曜日に運行しており、本渡中心部までの送迎。行き2便、帰りが3便、前日までの予約制となっており、事前に登録が必要。料金は1人400円、免許返納者は半額になる。

委員：連絡先はどこか、料金は片道の金額か。また、乗車人数は1人でも可能か。

事務局：予約は路線ごとにある予約ダイヤルに連絡していただくことになっている。料金は片道

料金。乗車人数については、乗合であるため複数乗っていただいた方が良いが、1人でも運行している。

委員：防災対策強化ということで、本渡中学校240名を対象に炊き出しや避難所の体験を実施した。9月1日の天草市一斉避難訓練においても、依頼があり訓練を実施、天草市は意識が高いと実感している。

福祉分野では、8050（80歳代と50歳代の親子）が問題になっている。1人の対応に2～3年と非常に時間がかかり、天草市で増加している状況。市と協力して支援しているが、まず自宅から引き出すまでが難しく、雇用につなげるまでに様々な課題がある。この先を考えると非常に不安を感じているおり、皆さんに知っていただきたいため報告させていただいた。

事務局：8050は全国でも問題になっている。本市でも社協と健康福祉部で連携し相談や支援を行っているが、先日の審議会でも課題としての提案がなされたところ。情報の把握や対策について、より具体的な連携体制等を検討する必要があるため、部内で定期的に検討委員会を開催し情報収集に努めている。閉じこもりの方についても、民生委員と連携し実態把握をすすめており、その数値を基に対策をすすめたい。皆さまにも情報提供をお願いしたい。

委員：光回線が徐々に広がっているが、今後天草管内全域にすすめていくのか。

事務局：市として、光ケーブルそのものの整備を全域に広げる計画はない。インターネット回線は、市の光ケーブルを通信事業者に貸し出している格差是正に取り組んでいる状況。天草ケーブルが、有明・河浦・天草町のそれぞれの一部で高速インターネットを提供している。医療機関においては、通常よりも高速の回線が必要になるため、市の回線を直接提供している。

委員：NTTの回線を使用して全域に広げる予定はないか。

事務局：NTTが広げるのであれば市としても大歓迎。しかし費用対効果が見込めないため、拡張の計画はないとのことから、市のケーブルを貸し出す現在の対策をとっている状況。

(2)人口の現状分析と第2期の策定に向けた国の動向及び天草市のスケジュールについて

事務局より説明

委員：人口ビジョンにおいて、2060年に45,000人の目標値が掲げているが、それぞれの町（旧市町）の推計値も出していただきたい。ひよっとすると消滅に近いような町もでてくるのではないか。

事務局：各町のシミュレーション数値も出しているのので、次回提示したい。各町について、天草市では拠点とネットワークの観点を取り入れ、総合計画で取り組んでいる。

会長：検討するうえで他に必要なデータや意見等があればお願いしたい。

【意見等なし】

次回会議

日時：令和元年12月19日（木）10：00～

場所：天草市民センター 展示ホール（1階）

以上

あまくさ創生実践会議 名簿

委員

	所属	役職	氏名	備考
1	慶應義塾大学	教授	玉村 雅敏	会長
2	天草市まちづくり協議会連絡会	会長	中川 竹治	副会長
3	本渡五和農業協同組合	代表理事常務	梅川 正	
4	あまくさ農業協同組合 指導販売部	部長	五嶋 伸幸	
5	天草地域森林組合	代表理事専務	野嶋 義澄	
6	天草漁業協同組合 業務部	部長	清見 秀勝	
7	(一社)天草宝島観光協会	事務局長	赤木 聖一	
8	天草経済開発同友会	会長	益崎 洋一郎	欠席
9	(一社)天草本渡青年会議所	副理事長	野口 太志	
10	牛深青年会議所	理事長	鶴田 量三	
11	本渡商工会議所	専務理事 事務局長	堀田 照二	欠席
12	牛深商工会議所	常議員	江崎 孝	(代)甲斐 直重
13	天草市商工会	経営指導員	林田 伸也	
14	天草市保育所連盟	会長	三宅 由利子	欠席
15	天草市県立学校長会	代表	平田 浩一	
16	連合熊本天草宇城上益城 地域協議会天草地区連絡会	幹事	宮崎 英治	欠席
17	天草信用金庫 地方創生室	室長	須崎 信吾	
18	天草市社会福祉協議会	本渡支所長	蓮池 美智代	

天草市

	所属	役職	氏名	備考
1	地域振興部地域政策課	課長	山本 洋介	
2	健康福祉部健康福祉政策課	課長	赤崎 むつみ	
3	市民生活部市民生活課	課長	堤田 幸治	
4	経済部産業政策課	課長	植田 伸広	(代)田川 誠也
5	観光文化部観光振興課	課長	中村 健一郎	
6	建設部建設総務課	課長	鎌田 正治	
7	教育部教育総務課	課長	柴田 和人	
8	総合政策部	部長	中村 一弘	事務局
9	総合政策部政策企画課	課長	塩先 敏彦	事務局
10	総合政策部政策企画課	係長	池田 恵美子	事務局
11	総合政策部政策企画課	主任	泉 陽介	事務局
12	総合政策部政策企画課	主任	鶴岡 将	事務局
13	総合政策部政策企画課	主査	中川 淳子	事務局
14	総合政策部政策企画課	主査	山川 里子	事務局